

「敵基地攻撃能力が必要」 元防衛相ら米シンポで強調

2017年05月02日 産経新聞 大阪夕刊

【ワシントン＝加納宏幸】自民党の小野寺五典元防衛相は1日、ワシントンのシンクタンク、戦略国際問題研究所(CSIS)が開いたシンポジウムで、自衛隊が敵基地攻撃能力を保有し、北朝鮮のミサイル攻撃に反撃する必要があるとの認識を示した。

小野寺氏は自民党の提言を説明する形で「心配なのは何発も繰り返し撃たれる飽和攻撃であり、2発目を撃たせないために反撃し、相手のミサイル基地を無力化することが必要だ。抑止力を高めるため日米双方とも反撃する力を持つ必要がある」と語った。

同党の中谷元(げん)・前防衛相も「ミサイル防衛で探知、迎撃、反撃を日本自らも行えるよう努力する意味で、早期警戒衛星の打ち上げが必要だ」と述べた。

民進党を離党した長島昭久元防衛副大臣は中国が南シナ海の人工島で進める軍事拠点化の動きを挙げ「北朝鮮は差し迫った脅威だが中国は中長期的な脅威だ。トランプ政権が経済と安全保障の問題をディール(取引)してしまうという懸念を持っている」と指摘した。
